

マリン児島だより

No.30

令和2年10月発行
マリン児島地区
社会福祉協議会
(児島小学校区)
事務局 ☎472-9667
印刷 (有)タナベ印刷

今から考えておきたい

新型コロナと災害 避難はどうする？

防災 特集

新型コロナの猛威はなかなか止まりません。そんな中、災害が起こったらどうするか。今から考えておくことが必要です。今号では、そんな複合災害が起こった場合の避難について特集してみました。

大雨や災害が予想される地域では「早めの避難」を心がけてください。同時に「避難先」も考えてください。避難所などで人が密集すると新型コロナウイルス

スに感染する心配もあります。

大雨が降ってから避難先や避難方法を考えたのでは間に合いません。あらかじめハザードマップなどで自宅周辺のリスクを把握し、頼れる知人や親戚を探しておくなど、今からできる備えを進めることが大切です。

分散避難を心がけて

災害のおそれがあるときに、これまでのように「避難所」に多くの人が密集すると、新型コロナウイルスの感染が広がるリスクがあります。これからは、「避難所」への避難以外にも、「親戚・知人宅」

であろうと予測される問題点を解決していくと努力しているところです。

児島医師会の地域の具体的な取り組みの概要は、

児島地区の地域包括 ケアシステムの構築



顧問 田嶋 憲一
(児島医師会副会長)

- ①平成23年より、「命のバトン」事業
- ②平成26年より、認知症連携「健康パスポート」
- ③令和元年より、災害時逃げ遅れないように「マイタイムライン」作成事業

り出すことにより、今後地域で起こる

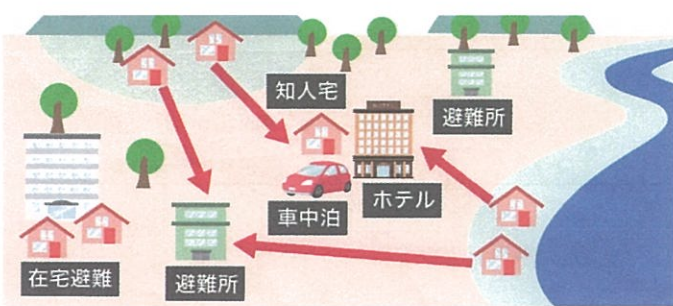
「ホテル」「在宅避難」「車中泊」などさまざまな避難先に、地域の人たちが分散して避難することが大切です。

頼れる知人などいれば

避難場所を分散させるため、安全な場所に住んでいる親戚や知人など頼れる人がいれば、そこに避難することも考えてください。

在宅避難も

川の近くや低い土地、斜面といった危険な場所にはないマンションなど頑丈な建物で、高い階に住んでいる人は、自宅にとどまって避難生活する「在宅避難」も考えてください。



賞をいただいた事業で「命のバトン」と「健康パスポート」は岡山大学医学部同門会賞に選ばれました。

今後は地域での個人の問題は、できるだけ情報を本人家族に与え続け、当事者が自分たちの判断で将来を選択できるようにすべきと考えます。そのため

には「健康パスポート」のようなものがあり、患者個人個人に合った連携の道具になると考えます。このような具体的な「道具」を持つことで、地域での連携が形となり、将来を見据えたあるべき地域ケアを具体的に作り上げられると考えます。

危険な場所でないければ 車中泊も

浸水のリスクがある地域や、山の斜面、倒壊した建物の近くなどの危険な場所でないければ、一時的に車の中で過ごす「車中泊」も考えられます。その場合は定期的な運動や換気などを心がけてください。

不安があれば ためらわず避難所へ

ただ、周囲に不安があれば、ためらわず避難所へ移動してください。

避難所へ持っていくもの

まず、避難所に行く際に、感染症を防ぐために持っていくべきものです。マスクを持っていない場合は、鼻と口を覆える大きさのタオルや手ぬぐいなども代わりに使えます。アルコール消毒液がない場合、ウエットティッシュも使えます。マスクなどは不足する状況もありますので、できれば自分で用意しておきましょう。



避難所に入る前に 体調チェックを

感染拡大を未然に防ぐために一番大切なこと。発熱やせき、強いだるさといった症状が出ていないかチェックするとともに、体温もはかることで感染の疑いがあるかどうかを判断することが大切です。

隔離する部屋の用意を

感染の疑いがある人がいた場合を想

定して、避難所を運営する人は、「隔離する部屋」を用意することも大切です。例えば学校の体育館が避難所となっている場合、教室なども使えるようにして、発熱やせきなど症状がある人のための専用の居場所を確保します。

避難所に入ったら

①3つの密を避ける

大事なのは「密閉・密集・密接」の3つの密を避けることです。

□「出来るだけ換気を心がける」

□「他人と2メートルほど距離をとる」

□「密接した状態での会話は避ける」

「密集」「密接」を防ぐためには、人と向い合せではなく背を向けて座るよう

したり、段ボールなどで間仕切りを作ったりすると効果があります。せきやくしゃみなどによる飛



まつ感染の防止にもなります。

②手洗い消毒の徹底

ドアや手すりなど、多くの人が触るものに触れた後は、手洗いや消毒を徹底するようにしてください。

過去の災害でも感染症発生

過去の災害でも、避難所で感染症の患者が相次いだことがあります。

東日本大震災でも、岩手県内の避難所で数十人規模のインフルエンザ患者が出たほか、4年前の熊本地震でも、南阿蘇村の避難所を中心にノロウイルスやインフルエンザの患者が相次いで確認されました。

(NHK特設サイト「情報より」)

2 コロナ禍でベルマーク収集 あいさつ運動

児島小学校

PTA会長 井上 雄志

学校生活を豊かに
するための諸活動

例年であれば、夏休みに「マリン児島三世代交流フェア」が開催さ

ります。地域の皆様には、日頃から子ども達の安全・安心のための見守り活動をはじめ、学校での学習支援まで幅広くご協力いただきありがとうございます。

子ども達が楽しみにしていた学校行事も縮小や中止を余儀なくされる中、PTA活動も例年通りというわけにもいかず、ベルマーク収集やあいさつ運動など、苦慮しながらできることに全力で取り組んでいるところです。これから寒い時期となり、より一層の感染拡大防止が求められますが、子ども達の学校生活を豊かにするために、新しい時代の生活様式に沿ってどのような活動ができるかを模索していきたいと思っています。



地域の方からベルマーク、
インクカートリッジの提供も

マリン児島地区には、地域住民はもちろん各団体や多くの関係者が会員となつていますが、今号から各地域で頑張っておられる団体、皆様にご登壇いただくこととしました。題して「出番です！」。

福祉のまちづくり に向けて

事務局

児島中部高齢者支援センター



社会福祉士
伊達 有美江

マリン児島地区社協の皆様には、日頃より大変お世話になっております。

小地域ケア会議では小学校区単位における地域に密着した情報共有及び課題解決に取り組んでお

小地域ケア会議

出番です！

倉敷市児島中部 高齢者支援センター

(指定介護予防支援事業所 倉敷市 第3300200155号)

電話番号: 473-0847

場所: 倉敷市児島柳田町355-1 (倉敷シルバーセンター内)

センター担当地域: 柳田町、小川町、小川1~10丁目、神田町、上の町

高齢者支援センターって何ですか?
高齢者支援センターは、2006年4月にできた機関です。倉敷市から業務の委託を受けている所です。倉敷市内25ヶ所に設置されています。小学校区を1つの単位としてそれぞれのセンターが担当し、高齢者の生活相談や支援を中心に活動しています。

高齢者支援センターがお手伝いします！

介護予防サービス利用への支援
高齢者の日常生活で困った事への相談
権利の擁護と虐待発見及び防止につとめる
地域で介護予防の教室を開催
ケアマネジャーへの支援と相談
介護保険制度の利用に関する申請や説明

●相談受付はいつでも可能。無料で承ります。お気軽にご連絡下さい。
※専任担当者への相談は平日9:00~17:30で対応させていただきます。

児島中部高齢者支援センター

◇担当職員

主任介護支援専門員 三宅 信子
看護師 仕田中美穂
社会福祉士 伊達有美江
社会福祉士 清水 剛
社会福祉士 寺山 裕貴
介護支援専門員/実態把握調査員 那須野恵子
介護支援専門員/実態把握調査員 片山 利子

◇小地域ケア会議主要役員

会長 岡野 輝忠
副会長 城山 昇
副会長 畑本 厚子

ります。事務局は児島中部高齢者支援センターが担当で、昨年度は防災と障がい者について話し合いました。防災ではハザードマップを利用した避難経路の確認等、障がい者については心ほっとサポーターの方と意見交換や情報共有をし、地域の中でどのように見守っていくかを話し合いました。

今後も地域の皆様と共に福祉の増進を図ってまいりますので、よろしくお願いいたします。



熱心な会議風景

4



「柳田中央ふれあい公園」看板

柳田地区に待望の公園完成!

新児島団地自治会長 石原 和昭



地域の人々で草取り活動

地域だより

児島柳田地区には、11自治会・町内会があり、現在千二百世帯、四千人が暮らしています。今まで柳田地区には公園がなく、子ども達が安心して遊べる場所がありませんでした。

この度、各関係各位様の多大なるご努力・ご協力をいただき、新児島団地こども広場が4月1日より「柳田中央ふれあい公園」となりました。

これからは、この公園が各レクリエーション、災害時の避難場所等として有効に利用され、より安心で安全に暮らせる地域にしていきたいと思っています。

これからも皆様のご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

3

小川平田 柘野良枝さん(96才)

むかし厳しく生き
今は自由に!



卒寿を超えて⑪

携われたりしたので、今という娘時代はなかったそうです。そうして昭和19年にご結婚され、ご主人と現在地に縫製工場を開かれましたが、優しいご主人が47才の若さで亡くなられてからは、一人で屋根に上がつてトイを修理したり、朝は暗いうちから畑仕事やらの働き詰めで夕食はいつも夜中だった当時の様子を感慨深げに話してくれました。

今は、娘さんご夫婦と一緒に住んでおられます。塗り絵やラジオ体操

大正13年生まれで、若い頃は戦争中のため山口県で縫製の勤務奉仕に

をされたり、食事好きな時に好きなようにされていて身の回りのことはもちろん買い物・病院通いもタクシーを呼んで、自分のことは全てご自身でされるのが身についておられるそうです。

また80才で四国霊場巡りもされており、お元気そのもの。

”長寿の秘訣とは”とお聞きすると甘いものは嫌いで、食事の後は必ず梅・らっきょうを頬張るとのこと。「自然流で生きていく」と今の生活の様子を窺えました。娘さんからは「人に頼らない人」なので、傍で見守っていても微笑みが返って来ました。(どうか自然流で) 描かれた塗り絵

